自 然 観 察　　2021 年 6 月 15 日発行／第 134 号　　年 3 回発行

自然観察

No.134
2021.6 月

目　　次

- ウオッチングレポート …… 2
- 参加者の声 …… 4
- フィールドニュース …… 5
- 2021 道央第 2 ブロック研修会のご案内 …… 11
- 2021 フォローアップ研修会のご案内 …… 12
- 2020 年度決算と 2021 年度予算 …… 13
- 2021 年度北海道自然観察協議会総会終える …… 15
- 編集後記・連絡先 …… 16

「ハマニガナ」　蘭越町港町

ウオッチングレポート

東川町　「キトウシ森林公園」観察会　　2021/3/25

【スタート】

３月１３日（受付８：30～開始９：00～終了 11：30～解散 11：45）。快晴，時々微風，ピーカン。参加者１３名・自然観察指導員９名と総勢 22 名のやや多めの観察会にはなったが，コロナ禍の中で自然と前後のグループに分かれたせいか手頃な人数構成になったかも？

最後尾に指導員を入れて先頭からから前には出ないように，最後尾からは遅れないように諸注意を告げて，準備運動後にスタート。 9：00～12：00 の予定だったが，早く終了（9：00～11：30）。標高差 140m，歩行距離 1.8km

最初から最後まで全員マスク着用だったのは，コロナのせいだが，やはり声の通りはよくないのは当然か？マスクの中で大声を張り上げる感じ！

【カンボク・ツル植物・樹木・足跡・クモ】

心の中ではキーワードを考えていたが，カンボクを見つけられずに前半グループには解説できず，後続グループは解説できたようだ（反省）。ほかのツルアジサイ・ツルマサキはお話できたが，ここ旭川近郊ではツルマサキはあまり多いという感覚はなく，旭山公園などでしか見られないようだ。下見（3/6）は７人で行い、カンボクの場所も覚えていた（筈）だったが（汗！）。本番ではほぼ下見トレース通りに自然観察会を実施できたがカンボクは見事にスルー。

ミズナラ・イタヤカエデ・シラカンバ・オオバボダイジュ（もしくはシナノキ）・ヤチダモ・ヤマナラシはここら辺の常連種と言えると思う。

「生きた」ウサギ・キツネ・エゾリスは確認できなかったが，足跡・食害跡・糞などもあり生息を感じられた。 今回，雪上に生きて動いているクモやハエ（死体）を見たが，クモガタガガンボならいざ知らず，かなりの小型クモを多数確認した。これも時期的・地域的には珍しいことのように思われるので記載しておきます。

【鳥類・フキノトウ】

鳥類も出て，それなりに盛り上がる。ハシボソガラス・カケス・ハシブトガラ・ヒガラ・ゴジュウカラ・アカゲラ・シマエナガ（最近人気だが頂上のお城近くの東屋で 10 羽ほどの集団）・シジュウカラ・マヒワ・トビなどが確認できた。

バードウォッチングに関心のある方の質問もけっこうありハシブトガラとコガラの識別・生息エリア等の話やアカゲラのドラミングのお話ができたのは，鳥に興味のある方が参加してくれたおかげだ。付近では冬期餌台を設置していたせいか，カラ類が多く確認できたのも予定外の「成果」といえた。

今期初認のフキノトウを後続グループは確認できたとのこと。沢状の中に発見できたが、この地区で３月中旬に確認できるとは思っていなかった。

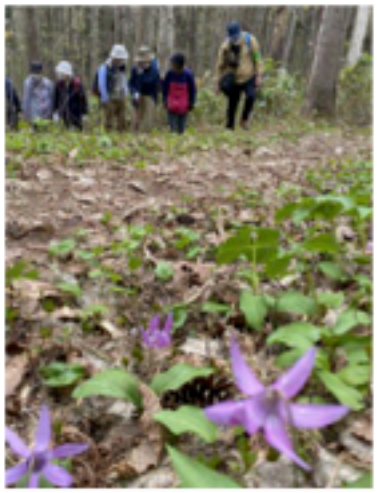
またしても見逃しのスルーだったのは残念。（柳田　和美）

小樽市　「旭展望台」観察会　　2021/4/29

桜の開花が例年に比べて１週間ほど早い春を迎え、毎年４月２９日の小樽地区の第１回観察会も穏やかな天候の中、実施されました。展望台へ向かう車道脇で、オオウバユリの葉に普段見られないカタクリハムシのつがいが、そこかしこにいました。エゾイラクサのトゲに触れると痛がゆくなって赤く腫れる原因は蟻酸で、イラクサを漢字で書くと「蕁麻」で、蕁麻疹の症状と似ている、との説明にみなさんご納得の様子でした。「ツノハシバンチャクに似ている」と感想をも

カタクリハムシの観察

エゾイラクサの観察


カタクリ群落

らしている方がおられ、つい笑ってしまいました。マスクを着用した９名の指導員と７名の一般参加者は適度な間隔を保って遊歩道を進みました。満開のカタクリ群落では、みんなで一年生のカタクリを探しました。

遊歩道を抜けると小林多喜二の文学碑があります。その前で一人の指導員が碑文を一節一節ていねいに読み上げて多喜二を偲びました。

「冬が近くなると　ぼくはそのなつかしい国のことを考えて深い感動に捉えられている・・・そこでは　人は重っ苦しい空の下を　どれも背をまげて歩いている・・・ぼくはどんなに愛しているか分からない」（岡部　実）

小林多喜二文学碑前

苫小牧市　「春の錦大沼」観察会　2021/5/9

残念でしたが、開始から１時間後に雨が強くなって、やむなく中止となってしまいました。コロナの中と悪天候の中、一般参加者の６名の方には感謝しています。苫小牧地方はサクラが満開で、この公園にもよく整備されており楽しませてもらいました。公園内の沼地の水生植物は、ミズバショウ以外はまだ早いようでした。また公園内では、ホソバノアマナ、フッキソウ、ネコノメソウ、ミヤマエンレイソウ、フイリミヤマスミレなどのスミレ類、マイヅルソウ、ユキザサなどが開花しており楽しませてくれました。

コロナが早く終わって、皆が安心して、観察会にたくさんの人が参加してくれるようになるまで、少しでも努力を続けていきたいと思っています。（白崎　均）

恵庭市「恵庭公園」観察会　2021/5/8

朝方の雨もあがり、気温と天気に恵まれたせいか、また、２年ぶりの観察会のせいか、２９名もの方々に集まって頂き、春の恵庭公園を堪能してあるきました。

今年の恵庭公園は、函館や札幌で桜の開花が早いとニュースになっている中、それはどこの話と言わんがばかり、季節の進みは遅めでした。エゾエンゴサクが満開、ニリンソウがやっと開き始めた中、エンレイソウ達やレンプクソウ、ネコノメソウの仲間達、ヒメイチゲなどが迎えてくれました。雨上がりが関係するかはわかりませんが、カタクリハムシも多く、オオウバユリの葉に一生懸命穴を開けている（食べている）様子も見られましたし、在来も含めオオマルハナバチも多く飛んでいました。森の音色も豊かで、カラ類にはじまりセンダイムシクイ、クロツグミなどが鳴いており、ヤマゲラやアカゲラ、ヤブサメなども観察できました。（林　祐子）

参加者の声

「長橋なえぼ公園」観察会　2020/10/25

札幌市　吉崎　由美

小樽なえぼ公園の自然観察会に初めて参加させていただきました。当日はあいにくの雨もようでしたが防寒対策をしっかりとして出発しました。なえぼ公園は想像していたよりもとても広く、野趣あふれる公園でした。

途中、植物の説明やどんぐりの事、冬芽を見せていただきながら進みました。急な坂を気をつけながら下りると平地に小川も流れおだやかな景色に。エゾリスの出現に夢中でシャッターを切りました。春にはたくさん桜が咲くそうですし、冬の散策も楽しそうだなと思いながら公園を後にしました。

初めてで少し不安もありましたがみなさんやさしい方ばかりで楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。

「秋の北大構内」観察会　2020/11/3

札幌市　佐々木　一代

北大の構内は、何度も歩いていましたが、講師の解説を聴きながらというのは初めてでとても、有意義な半日となりました。

転勤族として札幌に来ました。夫の定年後もこの地で生活する事を選び、少しずつ見聞を広げたいと思っていたので、参加できましたのを大変嬉しく思いました。

この様な、北大構内観察会は皆様方にご負担がかかるとは思いますが、続けて頂きたいと強く強く感じてしまいました。月１でも、開催されれば嬉しいです。都市の中に原始林が残っている札幌はすばらしいです。札幌市内の自然観察が楽しくなりました。

「キトウシ」観察会　2021/3/13

旭川市　矢野　勉

３月１３日、穏やかな日差しの中、友人にさそわれ、スノーシューで歩く「キトウシ森林公園」観察会に初めて参加させていただきました。歩く途中でヤドリギがあり、これは鳥が運んでくることを知りました。私の家周りに木がたくさんありますが、あまり気にもしておりませんでしたが、近くにあることがわかりました。これから時々観察していきたいと思います。

たくさんの方と出会いお話ができ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。また機会があれば参加させていただきたいと思います。

「旭展望台」観察会　　2021/4/29

小樽市　佐藤 邦子

今年度より勤務の職場で、観察員の日下部さんにお声を掛けて頂き、初めて参加致しました。展望台へ向かう林道には、キクザキイチゲやエゾエンゴサクなどの春一番の野草が芽吹いており、オオウバユリを観察中にはつがいのカタクリハムシを発見するなど、嬉しいサプライズも・・・。観察員ならではの説明を聞きながらの散策はとても楽しく、あっという間に時間が過ぎておりました。頂上付近の山道ではカタクリの群落が見頃を迎えており、こちらも大感激。でもこの可憐な花が開くまで早くて７年もかかるなんて、自然の深い営みを感じました。

近年の小樽は、バイパスや新幹線の工事などで森林の伐採が進み、そんな現状に、悲しみを通り越して怒りを覚えます。これらの草花の保護の為にも、もうこれ以上、自然破壊が進まぬ様、この活動を通して切に願う今日この頃です。

フィールドニュース FieldNews

目前で繰り広げられたマガモの縄張り争い

札幌市　村元 健治

雄鳥の囀りの意味

今年も、ようやく春満開の季節を迎えてきた。草木は伸び、鳥は歌い、人々も長い冬から解放されて、春を謳歌している。

そのような季節だが、鳥達にとっては、大事な子孫を残すための重要な季節を迎えることになる。

春になるや否や、鳥達は一斉に囀り始める。この囀りは、我々人間にとっては、軽やか、かつ美しく、楽しく聞こえてくるが、これはあくまでも人間側から聞いたもの。

しかし、これが鳥たちにとっては、別に聞こえるようでもある。雄鳥の囀りは、雌鳥にとっては美しく、とても魅惑的かつ誘惑的なものに聞こえているのに対して、他の雄鳥にとっては、雌鳥のようには聞こえず、自分の縄張りを引っ切り無しに宣伝しているだけでなく、少しでも自分のエリアに侵入してくる鳥を追い出すぞという警告の声にも聞こえてくるようだ。だから、自分のエリアに侵入する他の雄がいたら、即刻、追いだしにかかる。こうした鳥たちの行動は、恋の相手を見つけて、営巣していく春に多かれ少なかれ見られる。

この春、二組のマガモの番(つがい)の縄張りを巡って繰り広げられたバトルを見たので、報告したい。

棲息エリアを守るための小競り合いを繰り返す二組のカップル

日時は、ゴールデンウイークが終わった後の５月８日の午後３時ころのこと。場所は、家の近くにある札幌市手稲区山口地区にある「山口運河」(※)の船着場だった所。運河と言っても、近年、リニューアルされたもので、人工水を流して運河をかろうじて維持しているという代物だ。

散歩を兼ねて、この船着き場に着くと、二組のマガモが遊泳していた。カップルは、強い絆で結ばれているようで、ぴったりとくっつくように行動をしていた。じっと観察していると、どうも子育てがベテランのようなカップルの雄が優位そうで、もう一つのカップルの若そうな雄の方

をしきりに気にして、その様子を伺っている。それだけで済まなくて時折、カッカッと低い威嚇するような鳴き声を立てながら相手の若手カップルの傍まで寄っていく。相手先の1m手前まで来て、威嚇はやめる。これらの行動を何回か繰り返している。他方、若手カップルの方は、どうも気弱そうに見えて、相手に対して威嚇しよ
うという気は無いようで、一定の場所にとどまっている。

このように見てくると両カップルの間には、あたかも一直線上に水面の上に線を引いたように境界線があるようで、それを互いに越えないようにしているのが伺える。

船着き場は、幅が5～6m程、長さが30mほどで、たいして大きなものでは無い。ベテランカップルが、そのうちの20mほどのエリアを占有しているのに対して、若手カップは残りの10mほど占有しているように見受けた。

この縄張り面積の占有状況から見て、ベテランカップルの方が、優位な立場にあることが伺えられる。

若手カップルは、自分の境界線の近くの所でじっとしているのに対して、ベテランカップルの雄は、自分の境界線から少し離れた所にいて、時折、少し遠くにある両カップルの境界線まで監視に行くのだ。

時折、ベテランカップルの雄が若手のカップルがいる方向とは逆の反対方向にも、監視見回りに行くこともある。この時が、若手カップルにとって相手エリアに行くチャンスとなるため、相手のエリアに侵入しようとする兆候を見せる。するとその気配を鋭く感じたベテラン雄は、見回り監視を止めて、境界線を侵犯しないように素早く、Uターンして凄い威嚇をするのだ。それは牡牛とか、雄山羊が相手を威嚇する時、頭を低くして、相手目がけて突進することが良くあるが、それと同じようなスタイルを取ったのだ。ベテラン雄は、頭を低く下げて嘴を水面に半分ほど沈めて、一直線に相手目がけて突進していったのである。これは、見ている私の方でも、なかなか迫力のある示威行動だと思われたが、若手カップルの方にとっては、非常に恐怖を感じるものであるらしい。直ちに自分のエリアに逃げ帰ってしまった。

自分のエリアから相手側が出てしまえば、それ以上、追うことは無いようだ。正に境界線を巡っての小競り合いみたいなもので、そのような行動を何度か繰り返していたが、そのうちに、小競り合いから大競り合い、つまり壮絶なバトルを繰り広げるのではないかと予感がしたので、その時を待った。

相手カップルの陸上休息時にエリア侵入して繰り広げられた雄同士のバトル

両カップルのしばらく続いた小競り合いが一段落したころ、ベテランカップルが陸上に上がって休息を取り始めた。

この様子を見ていた若手カップルの雄は、しばらくしてから、恐る恐る相手側のエリアに侵入し始めたのだ。すると初め気が付かなかったベテラン雄は、ようやく気が付いた。その時、相手は、自分のエリアに7～8mほども侵入していた。これに気が付くや否や、水辺に降りて追いかけるという悠長なことはせず、いきなり飛び立っていった。相手側の傍に着くや否や、大きな鳴き声を上げて、羽を打ち広げな

バトル終了後の両カップル。手前中央よりに若手、その上の陸上にベテランがそれぞれいる。両カップルがいる辺りが、境界線となっている。

がら立ち上がって、嘴を突き出し攻撃を始めた。相手を攻撃する様は、かなり激しく水辺を所狭しと駆け巡って行われた。両者のバトル展開は、わずかな時間だったが、たちまちベテランの方が有利と見えて、若手は自分の境界の方に追いやられてしまった。縄張り争いを巡っての壮絶なバトルを目の当たりに見た私もかなり興奮したが、その興奮度は、私だけでなく、相手を追いだしたベテラン雄にも、依然として残っているらしかった。バトル終了後も、ベテラン雄は駄目押しのつもりか、それとも腹いせのためか、相手のエリアまでに乗り込んで、再度、若手雄を攻撃したのだ。これには、私もビックリした。

この両者の２回にわたるバトルをスマホで決定的な写真を撮りたかったが、何せ一瞬のことだったので、撮り損ねてしまった。撮れたのは、バトルが終わった後のものだった。

いずれにしても、狭いエリアではあったが、二組のマガモの棲息エリアを巡る壮絶なバトルをこの目でしかと見たのだが、この両者がこれほどまでのバトルをしたのは、この後、それぞれ営巣をして、子育てをしなければならないという事情に迫られているからである。この運河では、毎年、少なくとも一組のカップルから誕生するヒナ達を見ることが出来る。

それゆえ、自分の子孫確保にもつながる重大な影響を及ぼすこの鳥たちの自分たちのエリアを守るための壮絶なバトルは、我々の知らないところで、人知れず今日も激しく、密かに行われている。

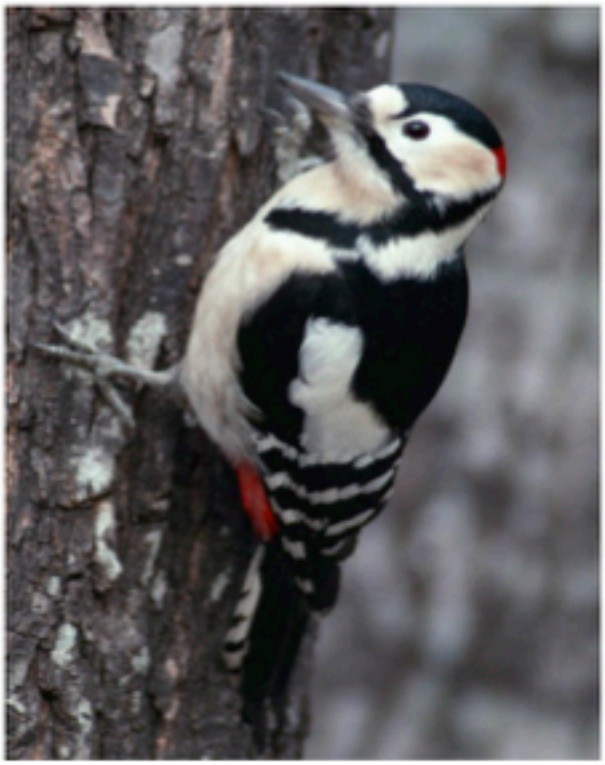
※明治 30 年に石狩茨戸から小樽銭函に向けて、舟運と排水を目的に掘削された運河で、現在、札幌市山口地区の一部の区間のみリニューアルされて保存されている。

身近にいる生き物たち

当別町　五十嵐 一夫

１１月の冷え込んだ朝、我が家のすぐ前にある街路樹の葉が一斉に落ち、木の枝が裸になると、とんでもないものが枝にぶら下がっていた。高さは３ｍほどの所で、長さ１５cmほど。スズメバチの巣だ。時期的に既に空になっているので危険は無いのでそのままにしておいた。

意外と丈夫で、２月いっぱいは原形をとどめていた。３月の風の強い日に、一番上の巣盤を残して残りは飛んで無くなった。私には見慣れたものなので、採ろうとは思わなかったが、自然観察会で参加者に見せて説明する良い材料なので、もぎ取ってきた。育房の大きさや全体の巣の形から想像すると明らかに黄色スズメバチ(ケブカスズメバチ)の作品なのだが、巣の大きさが不可解。あまりにも小さすぎる。過去に採取した巣は、長さ４０cm以上で、巣盤は１０もあった。私は、この木の根元の草取りを何度もしているが全く気付かなかった。恐らくかなり早い時期に何かアクシデントがあったのか、巣を放棄したものと思われる。私が顔を出す観察会には、もぎ取った巣を持って行きますから、運が良ければ、スズメバチの巣を見られますよ。



アカゲラ（雌）

庭にクルミの木がある。種から育てた木だが、正式には「手打ち胡桃」と言う。中の実は食用となり、炒って食べても良いし、刻んでパン生地に混ぜ、焼き上げれば、美味しいクルミパンが出来上がる。

１０年ほど前から実をつけるようになった。ある日、エゾリスがクルミの枝の上で実を食べていた。秋に球根を植えた鉢を春に掘り起こしたところ、底にクルミが１０個ほど並んでいて横に小さなトンネルがあった。エゾヤチネズミもクルミの恩恵に預かっていたようだ。

２階の窓から手の届くところに、クルミが実をつけていた。アカゲラがやって来て、しきりにこの実を突いている。回りを気にしながら突くこと５分。明らかに食べている。どうやって食べられる事を覚えたのだろう。さらに、ハシブトガラスが電線に止まってクルミを落とし、割っているのを目撃した。実の生り方が良い年だと思っていたが、横取りする生物たちが増えたおかげで、手元に残ったクルミの実は、わずかに７個。

エゾリスたちとの争奪戦をどうしたものかと考えもしたが、取りたいだけ取らせて、私は残り物を食べて満足することに心を決めた。これで笑顔になれる気がする。

スズメバチとエゾリスたちの話を紹介しましたが、田舎住まいなのでほかにもいろいろエピソードがあります。隣の空き地との境界でカツラの生垣作りに挑戦したことがありました。数年後に庭の草取りをしていたところ、後ろで「 ボコッ!!　ボコッ!! 」と音がします。ふり返るとアカゲラが、カツラの木を支えるために組んだ竹のフシヌキをやっていました。アカゲラの仕業が直接の原因ではありませんが、生垣作りは結局失敗して、今は擬木でごまかしています。

庭に木をたくさん植えているので、スズメよりも他の野鳥がよくいらっしゃいます。雪が解けると真っ先に、巣材にする枝を調達するためにハシブトガラスが来ます。地面に落ちた枝は気に入らないらしく、せっせと木の枝をむしり取っています。

シウリザクラの葉を２年続けてエゾシロチョウの幼虫にやられたときは焦りました。最初の年は一度くらい大丈夫だろうと無視していたところ、丸裸にされても６月頃にもう一度葉を出して事なきを得ました。でも彼らが３令幼虫で冬越しするとは知りませんでした。２年目は、仕方なく割りばし片手に徹底的に駆除しました。エゾシロチョウも野生の昆虫なのですが、私はまだまだ悟りの境地には達していません。

家を建ててから数年後にネジバナが一斉開花したことがありました。元々、水田だったところを造成した土地なので、道路との高さ合わせに入れた土に紛れていたのでしょう。粘土まじり、小石まじりのひどい土でした。１０年以上「ブタナの芝生?」のままでしたが、ここ数年、毎年のように２０本ほど花茎を立ち上げています。ネジバナって荒れ地に生えること知ってますか。

観察路の真下に特別高圧送電線

石狩市　石岡真子

身近な花川南防風林の観察コースの真下に、石狩湾新港洋上風力発電設備の送電線埋設工事は進められていました。

花川南防風林は、かつては「斜め風防林」と呼ばれ石狩砂丘まで続いていました（幅約 80m、長さ約 5 km）。明治 26（1893）年、原野開拓の際、開拓民の強い希望により伐採せずに残され、その後も大切に守られてきました。

写真１　工事看板

防風林の西側は樽川村で東側は花畔村、と二つの村の境界でもありました。時に植林が行われ、最近は林縁の下草が刈られますが、かつての原生林だったころの地形（紅葉山古砂丘、花畔砂堤列）や植生（260 種以上）を残し、60 種以上の野鳥やエゾリスなども観察される格好の自然観察フィールドになっています。また、防風林縁の市道は一般市民の散歩コースでもあります。

少なくとも月に１度は４～５人のグループで、花川南公園入り口（花川南６条５丁目）辺りから、防風林の中を通り、次に防風林の外から眺めながら出発点の公園入り口まで観察をしています。季節によっては、手稲街道まで活動の場を広げることもあります。

写真2　ウェルポイント工法

観察と工事

・2020年11月3日（火）

紅葉を見に行くと、な！な！なんと、石狩湾新港洋上風力発電の送電ケーブルの埋設工事に出くわした（写真１）。

発寒川近くでは「ウェルポイント工法」※と表示があり（写真２）、ポンプで地下水をどんどん汲み上げていた。紅葉山砂丘（縄文海進時の砂州を起源とする6000年前の海岸線）の上からのぞき込むと、防風林西側の市道を掘り起こし、送電ケーブル中継のためのマンホールを埋めていた（写真３）。

※ウェルポイント工法とは地下水位低下工法のことで、遺跡発掘などにも使われる。浅い部分の地下水を広い範囲で引くので、地盤沈下が発生する心配がある。

写真3　マンホールを埋めていた

・2020年11月15日（日）

マンホールの周りを埋めて仮舗装したところ（写真４）。紅葉山砂丘は大丈夫か？（写真５）

・2021年4月15日（木）

春植物を見に行くと、防風林２丁目で送電ケーブルを格納するオレンジ色のパイプの埋設工事をしていた（写真６）。工事をしていた人に尋ねると東京から来たと言った。

送電ケーブル：特別高圧 66kV、全長 10.8km

深さ：1～2m

ルート：石狩湾新港西端・渚ジョイント➡西札幌変電所（札幌市北区新川）

写真4　事業者のマンホールと仮舗装

・2021年5月11日（火）

エゾノウワミズザクラの満開を見に行くと、発寒川近くでも送電ケーブルを格納するオレンジ色のパイプの埋設工事をしていた（写真７）。地下水の汲み上げも同時に行っていた（写真８）。

写真5　芝を貼られた紅葉山砂丘と仮舗装の部分がわかる

送電線と電磁波

ＷＨＯの下部機関であるＩＡＲＣ（国際がん研究機関）は、50～60ヘルツの極低周波磁場は発がんランク［２Ｂ］の「人体の発がん可能性あり」を発表した（2001.6.27　フランス　リョン）。0.4μＴ（マイクロテスラ）＝4ミリガウス以上の磁場で小児白血病がおよそ２倍になる。

石狩湾新港洋上風力発電事業の特別高圧66kV送電線は、花川南防風林沿いだけでなく石狩市立南線小学校、石狩市立花川南小学校の周辺道路も通っています。学校周辺に特別高圧線を通すことも住宅地を通ることもおかしいのです。

写真6　オレンジ色のパイプの埋設工事

写真7　オレンジ色のパイプの埋設工事

写真8　汲み上げた地下水が排水され

石狩湾新港洋上風力発電事業の事業説明会は中止に

株式会社グリーンパワーインベストメントは、総出力112,000kW（8,000kW×14基）の事業計画を石狩湾新港の港湾区域に建設することを発表しました。当初のアセス方法書の計画では最大100,000kW（2500kW級×最大40基）となっていたが、総出力が１割以上増加しているので、アセスのやり直しをすべきです。単機出力が当初の３倍以上になったことも論外です。

札幌テレビ塔（147.2m）よりも高く、海面からの高さが約196mの風力発電機14基が林立します。海岸からの距離が1.8～3.5ｋｍの所に海岸線に平行に7基ずつ２列が予定されています。海の中の生態系はどうなるのか、砂の流れはどうなるのか、漁業にはどんな影響が出るのか、また、巨大な風力発電機から発せられる（超）低周波音は新港地域で働く人たち、近隣住民に対する影響など、分からないことだらけの上に、高圧送電線を生活道路に埋設することなどからも、進めてはならない事業だと思います。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業説明会は中止になりました。こんな状態で、事業も工事も進めてはなりません。

石狩湾新港の港湾管理者は北海道知事です。この事業は石狩湾新港管理組合の公募による事業です。鈴木直道知事には、この事業を取りやめて下さいと言いたい。

NOC

2021道央第2ブロック研修会のご案内

北海道自然観察協議会主催

9/11(土)

ポロト湖休養林自然観察会＆国立アイヌ民族博物館見学会

(9:00~16:20)

白老町のポロト湖外周に広がる豊かな自然の彩りを楽しみ、「ウポポイ」の空間でアイヌ民族の文化や自然観に、五感を通して触れてみませんか。

「ウポポイ」：

国立アイヌ民族博物館

(白老郡白老町若草)

ポロト湖自然休養林

(白老郡白老町白老)

日 程　9:00～16:20

9:00	ｳﾎﾟﾎﾟｲentrance広場 集合･受付
9:15	展示物閲覧(各自希望に応じて)
10:00	ウポポイ伝統芸能鑑賞(各自)
11:20	昼食(レストラン、他・各自)
12:20	施設見学･体験活動(事前希望集約)
14:00	ポロト湖外周休養林自然観察(全員)
16:20	終了･解散

※コロナ禍対応：ポロト観察会のみ(午前中)実施 or 全面中止の場合あり(判断:8/6 頃)

参加料： 入場料・他 1,200円～1,500円(当日)

参加募集: 20名位

6/25～8/2募集

最少開催：7名

全日程参加可能な方

詳細案内：8/30迄に参加者へ直接連絡

○観察会案内 ： **谷口 勇五郎 氏**

(苫小牧市在住、本会理事)

○全体案内 ： 道央2ﾌﾞﾛｯｸ会員･研修部理事

○参加申込 ： **日下部 久** まで

(道央第2ブロック小樽市在住、本会副会長)

電　話：090－9518－4883

E-mail: kawaaisa16@gmail.com

(申込：お名前･ﾒｰﾙ･電話･年齢･交通 など)

2021
9/25（土）
8:45~12:15
小雨決行
8:45集合
場所：余市水産博物館
（余市郡余市町入舟町21 ）
観察候補地：ヌッチ川他

NOC

北海道自然観察協議会主催

2021フォローアップ研修会のご案内

「ゼロから始める身近な自然観察会」

積丹半島の歴史ある余市町の豊かな自然にふれ、自然 観察会を始めるポイントを学び合いませんか。

研修：観察事例の紹介
ガイド案の交流
募集定員：先着10名
最少開催：４名
参加対象：
⇒2021養成講座受講者

詳細（場所・留意事項等）は
9/6迄に参加者へ直接連絡

コロナ禍等対応実施
1次判断 9月4日(土)

○講　師	吉田陽子（2019登録自然観察指導員）
○協　力	鳥澤哲子（余市町在住会員）、小樽・後志地域会員
○交　通	各自家用車など（候補地近くに駐車）
○参加費	協議会会員150円、未会員200円(傷害保険料・実代)
○持ち物	雨具、飲み物、散策靴等、防虫剤、筆記用具あれば双眼鏡
○報　告	ご氏名・住所・連絡先・性別・年齢(保険の関係上)

○参加申込先　北海道自然観察協議会研修部
FAX 0158-46-3921　携帯090・3897・5392
E・mail　kinetics58@gmail.com
○申込期間　**7月4日(日)～ 8月7日(土)**

2020 年度決算と2021年度予算

2020年度決算

2021年3月20日

収入の部　　単位(円)

項目	20年度予算(A)	20年度決算(B)	摘要
前年度繰越	346,116	346,116	
会費	360,000	320,500	年会費(複数年会費を納入の方を含む)
観察会・研修会参加費	60,000	42,713	2019年度観察会参加費(保険料)
積立金取り崩し	0	0	
雑収入	1,000	11,500	寄付金(横山氏、磯貝氏)
その他	0	28,835	全道研修助成金戻り,開催地研修会助成金戻り
合計	767,116	749,664	

※2020年度の観察会参加費は2021年度収入といたします。

支出の部　　単位(円)

項目		20年度予算(D)	20年度決算(E)	摘要
事務費	通信費	45,000	40,485	理事通信費等補助　5,000円×7名,郵券
	HP管理費	30,000	10,000	HP運営費10,000円
	消耗品・雑費	25,000	20,982	事務局関係雑経費、振込料、コピー用紙、インク代など
	会議費	160,000	96,507	理事会会場費、理事会旅費補助として
	その他	0	3,000	会費返金分として
	<小計>	260,000	170,974	
会報費	会報郵送費	80,000	67,112	会報発送時郵便代(メール便3回)
	会報印刷代	160,000	143,550	会報発行費(3回)封筒印刷代含む
	通信費・振込料	15,000	330	編集関係郵券・振込料
	消耗品・雑費	10,000	330	宛名ラベル代、文具代など
	編集会議費	30,000	8,000	編集会議会場費、お茶代、駐車料など
	<小計>	295,000	219,322	
活動費	観察会費	30,000	12,246	参加者保険料、保険料振込み手数料、雑費など
	総会開催費(兼研修会)	20,000	0	今年度総会時研修なし
	全道研修助成	60,000	60,330	講師謝礼、資料代、運営補助費として
	地方ブロック研修会助成	25,000	25,110	講師謝礼、資料代、運営補助費として
	フォローアップ研修会	20,000	5,000	講師(内部)謝礼として
	自然観察指導員講習会	0	0	今年度開催なし
	夏休み親子自然観察会助成	5,000	2,202	しおり印刷代
	消耗品・雑費	20,000	7,812	振込み手数料、文具・消耗品など
	通信費、振込料	5,000	2,304	活動関係郵券・振込料
	団体加入費	3,000	0	高山植物ネットワーク加盟費は今年度支払なし
	<小計>	188,000	115,004	
予備費		24,116	0	
特別会計積立		0	0	
合計		767,116	505,300	

収支残高　総収入(B) 749,664−505,300＝244,364 翌年度繰り越し

2021年3月20日　上記の通り決算報告します。
会計　加藤秀史　印

2021年3月20日　上記に関する監査を実施し、適正であることを認めます。
監事　佐藤佑一　印　　小林保則　印

2021年度予算(案)　　2021　3.28

収入の部　　単位(円)

項　目	20年度予算(A)	20年度決算(B)	21年度予算(C)	増減(C－A)	摘　要
前年度繰越	346,116	346,116	244,364	−101,752	
会費	360,000	320,500	380,000	20,000	年会費納入見込　190 名×2000円
観察会・研修会参加費	60,000	42,713	40,000	−20,000	観察会参加費(保険料)　研修会などの参加費
積立金取り崩し	0	0		0	
雑収入	1,000	11,500	1,000	0	利息など
その他	0	28,835		0	
合　計	767,116	749,664	665,364	−101,752	

支出の部　　単位(円)

項　目		20年度予算(D)	20年度決算(E)	21年度予算(F)	増減(F－D)	摘　要
事務費	通信費	45,000	40,485	40,000	−5,000	役員通信費等補助5,000円×7名、郵券
	HP管理費	30,000	10,000	30,000	0	ラピュールHP管理費20,000円＋HP運営費10,000円
	消耗品・雑費	25,000	20,982	25,000	0	事務局関係諸経費、振込料・郵券代・インク代・用紙代など
	会議費	160,000	96,507	120,000	−40,000	理事会・三役会・編集部作業旅費補助・会場費など
	その他	0	3,000	0	0	
	＜小計＞	260,000	170,974	215,000	−45,000	
会報費	会報郵送費	80,000	67,112	80,000	0	会報発送時郵便代(メール便　3回)
	会報印刷代	160,000	143,550	150,000	−10,000	会報発行費(3回)封筒印刷代含む
	通信費・振込料	15,000	330	10,000	−5,000	編集関係郵券・振込料
	消耗品・雑費	10,000	330	10,000	0	宛名ラベル代、文具代など
	編集会議費	30,000	8,000	15,000	−15,000	編集会議会場費・お茶代、駐車料など
	＜小計＞	295,000	219,322	265,000	−30,000	
活動費	観察会費	30,000	12,246	20,000	−10,000	参加者保険料　保険料振込手数料　雑費など
	総会開催費(講演会)	20,000	0	0	−20,000	2021年度総会時研修(講演会)なし
	全道研修会助成	60,000	60,330	0	−60,000	2021年度開催なし、(2022年度より隔年実施)
	地方ブロック研修会助成	25,000	25,110	25,000	0	講師謝礼　資料代　運営補助費として
	フォローアップ研修会	20,000	5,000	15,000	−5,000	旭川地区スキルアップ研修会講師謝礼運営補助費として
	自然観察指導員講習会	0	0	75,000	75,000	2021年度開催予定(隔年)
	夏休み親子自然観察会助成	5,000	2,202	2,000	−3,000	資料代として
	消耗品・雑費	20,000	7,812	10,000	−10,000	振込み手数料、文具、消耗品など
	通信費	5,000	2,304	5,000	0	活動関係郵券代、振込料
	団体加入費	3,000	0	3,000	0	高山植物ネットワーク加盟費
	＜小計＞	188,000	115,004	155,000	−33,000	
予備費		24,116	0	364	−23,752	
特別会計積立金		0	0	30,000	30,000	40周年行事積立10,000円、全道研修会助成金積立20,000円
合　計		767,116	505,300	665,364	−101,752	

2021 年度北海道自然観察協議会総会終える

事務局

令和 3 年 4 月 3 日（土）13:00 から、札幌エルプラザ２F 環境研修室１・２において２０名が参加して総会が行われました。横山会長からの冒頭挨拶後、議長に三澤理事、記録に田守が選出され、議事進行となりました。進行に当たっては、コロナ禍の現況を配慮して適宜の空気入替えに配慮するとともに、可能な限り時間短縮するため予定していた議案順ではなく会計と事業にまとめて報告、質疑応答となりました。各議案とも満場一致で了承されました。以下に、議案順に議事状況（議事録）を報告します。

横山会長あいさつ要旨

・2020 年度はコロナ禍で制約が多く、中止した予定イベントがあったが、その中で工夫しながら実施した観察会等も多く、感謝申し上げたい。

・私達を取り巻く環境・状況は変化しており、指導員個々人は健康・体力維持に努めて欲しい。

・可能であれば、オンラインの取り入れや現地参加を工夫するなどして参加者を増して、新しい会員として迎える機会を増やしてみては如何か。

・高齢化に伴い退会者は増加し続けており収入も減少傾向である。少ない収入を効率的に使用して観察会等各種イベントを継続して欲しい。

１号議案（2020 年度事業報告）各部長

・一般観察会は 38 開催予定のうち、コロナの影響で 17 開催が中止となった（観察部）

・観察会参加者は高齢者が多い（観察部）

・全道研修会とフォローアップ研修会は実施したがコロナの影響で地方ブロック研修会は中止となった（研修部）

・旭川で実施した指導員スキルアップ研修会の概況を紹介（山本理事）

・会報は計画通り３回発行したが、コロナの影響で 131 号は頁数半減した（編集部）

・コロナの影響で講演会が中止となった（事務局）

・退会者が目立っている。2021 年 2 月 6 日現在で 208 名の会員数（事務局長）

2 号議案（2020 年度会計決算報告・監査報告）事務局会計、監事

・収入の部、支出の部の各項目を報告。（会計）

・決算報告の監査結果について適切であったことを報告（監事）

・収入の部は、会費未納や退会者の影響で決算は対予算で減収（会計）

・支出の部では、通年に亘るコロナ影響で総会時研修や指導員講習会開催中止等となり各費用項目とも決算が予算を下回った（会計）

（質疑）

・2020 年度内イベントの個人負担未精算分の扱い（決算への反映）について、質問があり、会計より、協議会としての決算締め時期が一般的な 2021 年 3 月 31 日よりも早期であることに起因している。未精算分の支払いは、本日行うが、この場合は、会計上 2021 年度費用扱いとなる旨説明し、了承。

3 号議案（2021 年度事業計画案）各部長、事務局長

・今年度の観察会は 39 回開催を予定。実施に当たっては、新型コロナウィルス感染症影響下における監査会の留意点（会報 133 号）を参考にして欲しい（観察部）

・観察会参加者の傷害保険適用は、名簿記入後から保険適用となるため改めて留意して欲しい（観察部）

・全道研修会に関しては、今年度以降全道 5 ブロック順に隔年実施とし、今年度については翌年度（2022 年度）に向けた準備の年とする。（研修部）

・地方ブロック研修会は担当の地方ブロックが研修部と連携して主体的に運営する研修会である。今年度は、9 月 11 日予定しているが、コロナ禍を考慮して 8 月 6 日までに実施判断する。（観察部）

・各種研修会が存在し、分かり辛いため、別途、全体を分かりやすく整理する（研修部）
・40 周年記念事業（2025 年度）は実施する。詳細は別途検討していく（事務局）
・道民カレッジの連絡講座の窓口を正式に事務局に位置付けた（事務局）

（質疑）

・フォローアップ研修会について、原案では隔年実施、2021 年度の実施予定はないとあるが、
　・隔年実施でなく地方に委ねた方が良いのでは？
　・協議会としてやったほうが良いのでは？

との意見が出され、「実施については年 1 回程度とする」と原案を修正することになった。

4 号議案（2021 年度会計予算案）事務局会計

・収入の部として、前年度繰越金が対前年度から約 10 万円減少しているため、年会費見込み 190 名で予算化しているが、2020 年度決算や 2019 年度予算と比較して若干積み増ししており、収入予算は総じて厳しいことを説明
・支出の部として、40 周年記念事業積立と全道研修会助成金積立のため、今年度は特別会計として 3 万円を計上したことを説明
・支出項目は各項目とも対前年度比減少していることを説明

（編集後記）

新型コロナ感染症の影響で予定していた 5 月の観察会は中止が続出しました。ワクチン接種は始まっています。次号では多くの観察会記事を紹介できることを楽しみにしております。（田守）

自然観察 2021 年 6 月 15 日/第 134 号　年 3 回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれます)
発行　北海道自然観察協議会
編集　北海道自然観察協議会編集部